

平成16年度宮城の発掘調査パネル展

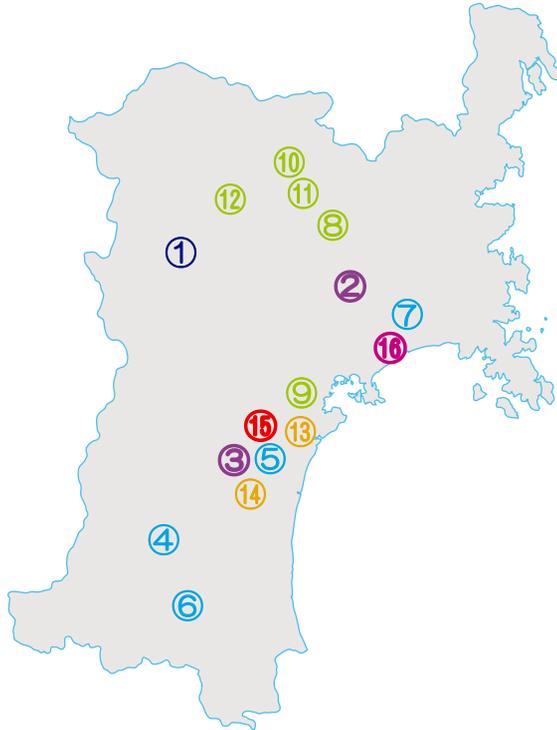
宮城県教育庁文化財保護課
2005年3月28日～4月8日 県庁1階ロビーにて開催

宮城県には、旧石器時代から江戸時代まで6000ヶ所余の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことは私たちの責務と考えております。

県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、開発に伴って姿を消す遺跡もあり、それに対してはやむをえず発掘調査を実施しています。

このたび、本年度に行った発掘調査の中で特に話題になった遺跡をパネルで紹介することになりました。この機会に文化財に親しみ、文化財の保護に対してご理解を深めていただければ幸いです。

今回の展示にあたって快くご協力をいただきました各教育委員会・機関に対しこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。



時代	年代	主なできごと	パネルの遺跡
旧石器時代	約500万年前 約50万年前 約3万年前	アフリカで人類が誕生する 北京原人が洞窟で生活する 後期旧石器時代が始まる	①葉菜原No.15遺跡（加美町）
縄文時代	約1万2千年前 約5000年前	土器・弓矢が出現する 三内丸山遺跡（青森市）で集落が営まれる	②東要害貝塚（鹿島台町） ③上野遺跡（仙台市）
弥生	BC400年頃	米作りが始まる	
古墳時代	300年頃	豪族が盛んに古墳を造る 雷神山古墳（名取市）、遠見塚古墳（仙台市）	④立目場遺跡（蔵王町） ⑤大野田古墳群（仙台市） ⑥鷹巣古墳群（白石市）
飛鳥	645年	大化の改新	⑦矢本横穴墓群（矢本町）
奈良時代	710年 724年 752年	平城京（奈良市）に都を移す 多賀城が築かれる 東大寺大仏が完成する	⑧木戸築跡群（田尻町） ⑨多賀城跡（多賀城市） ⑩伊治城跡（築館町） ⑪原田遺跡（築館町）
平安時代	794年 1164年	平安京（京都市）に都を移す 平清盛が太政大臣となる	⑫要害遺跡（岩出山町）
鎌倉時代	1192年	源頼朝が鎌倉幕府を開く	
室町時代	1338年 1467年	足利尊氏が室町幕府を開く 応仁の乱がおこる	⑬中野高柳遺跡（仙台市） ⑭鶴ヶ崎城跡（岩沼市）
安土・織山時代	1590年 1600年	豊臣秀吉が天下を統一する 仙台城の築城始まる	
江戸時代	1603年	徳川家康が江戸幕府を開く	⑮仙台城跡（仙台市）
明治	1867年	明治維新	⑯野蒜築港跡（鳴瀬町）

旧石器時代

確実な後期旧石器を発見



後期旧石器18点が出土した調査区を西より望む
まわりより高くなっている箇所が石器出土位置。

①葉菜原No.15遺跡（加美町）

葉菜山東側の麓の遺跡で、18点の石器が火山灰層より出土しました。ナイフ形石器とよばれる後期旧石器時代（約3万年前～1万2千年前）に特徴的な石器が含まれています。後期旧石器時代の確実な遺跡がまた一つ増えました。

後期旧石器時代に特有のナイフ形石器（上2点）と石刃（下3点）



縄文時代

縄文時代の貝塚とお墓



推定身長152cm、20代後半～40代の女性を屈葬したお墓

②東要害貝塚（鹿島台町）

縄文時代前期（約6,000年前）～中期（約4,500年）にかけての遺跡で、貝層や遺物包含層といった当時のゴミ捨て場や住居跡、お墓などが見つかりました。多量の土器や石器とともに



縄文人が食料としていた貝や獣・魚・鳥の骨などが多数出土し、当時の生活の様子を知る上で貴重な資料となりました。

貝塚の調査状況

白く見えるのが貝殻です。鹿島台町国保病院の再建に伴い調査しました。

縄文ムラの様子



③上野遺跡 (仙台市)

都市計画道路の路線敷を調査しました。



多量の土器や石器が捨てられていた幅1~3m、深さ60cm前後の溝。土器や石器を投げ捨てた場所として利用されています。この溝は居住域と貯蔵場とを分けています。縄文時代の溝として珍しい例です。

縄文時代中期中頃~末頃(約4500~4000年前頃)の集落跡です。中央の溝からは不用になって捨てられた土器や石器が大量に出土しました。溝の西側では竪穴住居跡やピット群、東側では木の実などを貯蔵したと考えられる穴が多数見つかりました。目的に応じて集落内を使い分けていたことがよくわかります。

古墳時代の大型竪穴住居跡



④立目場遺跡 (蔵王町)

石で組んで作ったカマドの跡



竪穴住居跡の全景写真

今回の調査で見つかった他の住居跡が一辺4mくらいなので、この住居だけが特に大きかったことがわかります。

古墳時代中期(5世紀)の集落跡で、大型の竪穴住居跡が発見されました。住居跡は地面を一辺約7.6mの四角形に掘り込んで作られていました。住居の壁際にカマドが設けられていました。これは石を立てて側壁を作り、その上にふたをするように石でおおったものです。

北方文化の影響を受けたお墓



並んで発見された2基の木棺墓 白線が木棺の痕跡。



副葬品の土器を埋納した横穴。このような横穴は県内では加美町米泉館跡で発見されている。本例は最も南での発見となった。

⑤大野田古墳群 (仙台市)

富沢駅周辺の土地区画整理事業に掘調査で、古墳時代後期(6世紀)の木棺墓2基などが見つか。木棺墓の底からは刀子(小刀)、鉄鏃(鉄の矢じり)が出土しました。南西隅の壁面中程には、土器を副葬品としておさめた小さな横穴があります。このような横穴は北海道から東北部の影響がうかがえます。

保存決定。鷹巣29号墳



鷹巣29号墳

たかのす こふんぐん

⑥鷹巣古墳群 (白石市)

墳丘は直径10mほどの円墳です。



横穴式石室を正面から見た写真

白点線が石室の範囲です。石室内部の積石が崩れている様子がよくわかります。

白石市の鷹巣丘陵上に40基ほどの古墳が確認されています。写真は6世紀頃に造られた直径約10mの円墳です。この古墳には横穴式石室と呼ばれる遺体を安置した石室があり、石積みの様子がわかります。保存されるため、石室の内部の調査はしませんでした。どんな人物が葬られているか興味はつきません。

用語解説

◆土師器：800℃くらいの低温で焼かれた赤褐色や黄褐色の比較的やわらかい焼きもの。食べ物をもった環、調理等に使われた甕などがある。

◆木棺墓：棺に板材など木を用いた墓。木質部は腐って残っていない場合が多い。

◆築地塀：屋根を葺いた土塀。

◆追葬：同じ埋葬施設の中に、後になって死者を葬ったもの。

◆改葬：一度葬った死者の死体を片づけて改めて葬ったもの。

◆城柵：辺境に対する中央政府の支配拡大のために作られた国府の出先の性格をもつ役所。国府の上級官人である国司が長として派遣された。

古代牡鹿地方の豪族のお墓



崖面から多数見つかった横穴墓全体で200基程と推定されます。

⑦矢本横穴墓群 (矢本町)

崖面に長さ4～5mの横穴を掘った横穴墓と呼ばれるお墓が42基発見されました。古代の牡鹿地方を治めた豪族・道嶋氏に関連した人々のお墓と考えられ、7世紀中頃～9世紀初頭頃までのものです。人骨が片付けられた状態で見つかったお墓もあり、何世代にもわたって一つのお墓を使い続けたことがわかります。



7人前後の頭骨や大腿骨などが片づけられた状態で発見された64号墓。何度か追葬され、最後に改葬されたようです。

多賀城創建期の瓦窯跡



調査した3号窯跡(中央)内の遺物出土状況。両側には未調査の窯跡がある。

⑧史跡木戸窯跡群 (田尻町)

瓦と須恵器を生産し、創建期(8世紀前葉頃)の陸奥国府多賀城などに供給していました。今回の発掘調査で8基の窯跡を検出し、うち2基を詳しく調査しました。多数の平瓦、丸瓦や須恵器の他、屋根の頂部(棟端)を飾った鬼板や軒先に用いられる軒丸瓦、軒平瓦もみつかりました。



これまで未発見のタイプの鬼板(板状の鬼瓦)。中央に軒丸瓦と同様の文様を大きく配置し、四隅は蓮花のつぼみで飾っています。中央の小穴は打ち止めるための釘穴です。

古代陸奥国府の政庁を再検討



東脇殿周辺の火災痕跡と瓦の集中

⑨特別史跡多賀城跡 (多賀城市)

奈良・平安時代の陸奥国府、多賀城の中心施設である政庁跡を30年ぶりに発掘しました。今回の調査で建物を建てる際の基礎工事の跡や、火災の跡が新たに発見され、奈良時代後半頃の政庁の姿がこれまで考えられていた以上に立派であった可能性が出てきました。



政庁を北から望む。今回の調査で、正殿の東側に脇殿が建っていた可能性が出てきました。

伊治城跡の外郭南門跡を発見



伊治城跡 外郭南門跡

⑩史跡伊治城跡 (築館町)



外郭南門跡、櫓跡、想定される築地塀跡の様子。南側崖下に迫川。

古代の城柵、伊治城跡の外郭南門で掘立柱の正面3間、奥行2間の外郭南門跡が発見されました。政庁南門跡と比較すると大きく立派なもので、当時の伊治城のシンボリック的存在だったかもしれません。また、これまでの調査成果から、伊治城跡の外郭南門は時期によって位置を移動していたと考えられます。

火災現場の実況検分



家財道具の土器や壁材などが燃え残った火災現場



兵士の武器である挂甲小札がまとまって出土しました。



X線写真でみた挂甲小札

⑪原田遺跡 (築館町)

この竪穴住居跡は、8世紀後半頃の一辺が7m程の方形の大型住居です。火災にあったため当時の屋根材や壁材の一部が炭化して発見されました。また、持ち出す時間がなかったために、土器などの多量の家財道具が出土しました。他に鎧の部品(挂甲小札)が多く出土しました。近くに位置する伊治城跡に関係する人々の住居かもしれません。

文字に願いを込めて



平安時代の土師器坏などに書かれた「万上」「万」「上」

⑫ 要害遺跡 (岩出山町)



工事に発見され、まとまった数の墨書土器が発見されました。写真中央に見える黒い土は当時の河川跡です。

平安時代(約1200年前)の河川跡から土師器坏や鉢に「万上」「万」「上」という文字を墨で書いた土器がまとまって出土しました。「万」には大きい数、「上」には上級、高いなどの意味があります。「万上」は縁起のよい語句とみられ、豊かな生活などを願う祭祀、それに伴う宴などに使われた土器と考えられます。

解明進む中世の屋敷跡



屋敷の南東隅部分

⑬ 中野高柳遺跡 (仙台市)



調査区を上空から見た写真溝で囲まれる屋敷がいろいろな場所で見つかりました。

仙台港の西に位置する、中世から近世の頃の屋敷跡です。幅3m、深さ1.5mほどの大きな溝で区画された敷地は、武士階級の屋敷跡と考えられ、掘立柱の建物跡や井戸跡などが見つかりました。また、幅が細い溝で区画される屋敷跡はやや身分の低い者の屋敷とみられ、ここには様々な身分の人が住んでいたことが想像できます。

大規模な土塁の調査



土塁跡の断面 (土の重なりをみてください)



土塁の下から弥生時代の竪穴住居跡や縄文時代早期のゴミ捨て場が見つかりました。

中世～近世

⑭ 鶴ヶ崎城跡 (岩沼市)

鶴ヶ崎城跡の大部分は明治20年頃、東北本線の工事によりかなり失われました。今回、城跡北西部で長さ約36m、高さ4.5mの土塁を調査しました。土塁は2回の改修の痕跡が見つかり、中世後期から近世のものとなりました。近世の鶴ヶ崎城跡は岩沼要害とも呼ばれ、仙台藩の重要な拠点の一つでした。

仙台城本丸の通路跡



通路跡と考えられる石敷きの跡



写真はこの位置
仙台城本丸跡の平面図

安土桃山
～江戸時代

⑮ 史跡 仙台城跡 (仙台市)

本丸御殿の中心的建物であった大広間とその西側にあった御成門との間に、約2.5m幅で、石が敷かれているのが見つかりました。これは天皇や将軍を迎える専用の門である御成門から大広間につながる通路の跡と考えられます。

宮城が誇る近代化土木遺産



発見した下水道施設 (暗渠) の全景



下水道施設 (暗渠) 中の様子

明治時代

⑯ 野蒜築港跡 (鳴瀬町)

野蒜築港は明治時代に日本で初めて外国から学んだ方法でつくられた港です。今回見つかったのは、港の建設にあわせて造成された市街地の道路の下に埋められていた下水道の跡です。このような下水道は全国的にみても、横浜と並びきわめて早い時期のものです。

用語解説
◆陸奥国：平安時代の陸奥国の範囲は、福島県・宮城県から岩手県盛岡市周辺を含む広大な地域である。各国を治める役所を国府とよび、陸奥国の国府は多賀城に置かれた。

◆仙台城：伊達政宗築城。本丸、二の丸、三の丸(蔵屋敷)などがあった。明治維新の取り壊しや昭和20年の戦災による火災で建物は残っていない。現在、本丸の石垣修復や発掘調査を仙台市教育委員会、東北大学構内の発掘調査を東北大学埋蔵文化財調査委員会が行っている。

協力 (五十音順)

岩出山町教育委員会 (要害遺跡) / 岩沼市教育委員会 (鶴ヶ崎城跡) / 鹿島台町教育委員会 (東要害貝塚) / 加美町教育委員会 (薬菜原No.15遺跡) / 蔵王町教育委員会 (立目場遺跡) / 白石市教育委員会 (鷹巣古墳群) / 仙台市教育委員会 (上野遺跡・大野田古墳・仙台城跡) / 多賀城跡調査研究所 (多賀城跡・木戸築跡群) / 築館町教育委員会 (伊治城跡) / 鳴瀬町教育委員会 (野蒜築港跡) / 矢本町教育委員会 (矢本横穴墓群)